

的確な穂肥診断で、高品質安定生産を目指そう！

1 6月20日現在の稲姿

- 生育は、指標値並ですが、茎数は多めとなっています。
- 出穂期は、平年より早まる見込みです。

【6月20日現在の生育概況：平坦地管内平均】

※()内は、測定値：指標値との比較

品種	草丈	茎数	葉数	葉色(SPAD値)
こしいぶき	並 (37cm:103%)	多 (452本/m ² :126%)	並 (8.8葉: -0.2葉)	並 (40.5: -0.5)
コシヒカリ	やや長(40cm:105%)	やや多(451本/m ² :105%)	並 (9.0葉:+0.2葉)	並 (38.1: -0.9)

2 品種別出穂予想と穂肥時期のめやす(6月20日現在の予想日)

品種	出穂予想日	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量(kg/10a)
		時期	出穂前日数	時期	出穂前日数	
新潟次郎	7/19頃	6/19~6/24頃	30~25	7/5頃	14	6
五百万石	7/23頃	7/3頃	20	7/11頃	12	1~2
つきあかり	7/21頃	6/21~6/26頃	30~25	7/7頃	14	3~3.5
わたぼうし	7/25頃	7/3~7/5頃	22~20	7/13~7/15頃	12~10	2~3
こしいぶき	7/28頃	7/5頃	23	7/14頃	14	2
こがねもち	8/2頃	7/15~7/18頃	18~15	7/23頃	10	1~3
コシヒカリ	8/3頃	7/16~7/19頃	18~15	7/24頃	10	1~2.5
新之助	8/7頃	7/18~7/21頃	21~18	7/29頃	10	2
いただき	8/8頃	7/14頃	25	7/25頃	14	6
越淡麗	8/10頃	7/23頃	18	7/31頃	10	2
みずほの輝き	8/12頃	7/18頃	25	7/29頃	14	3

◎ 稚苗5月10~15日頃、中苗5月15~20日頃に移植した場合を想定。
◎ 今後の天候で前後する可能性がある。

3 穂肥診断のポイント ~ほ場ごとに自己診断しよう！~

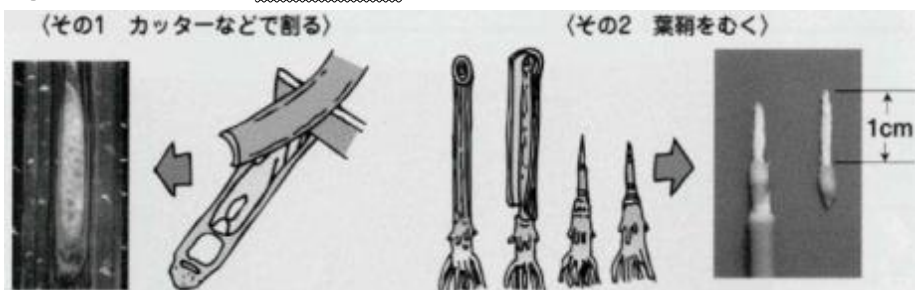
- 穂肥は、下記の手法で必ず稲の生育診断を行うとともに、天候や病害虫の発生状況及び地力等を総合的に判断して決める。
- 穂肥施用時は浅めに湛水し、その後は飽水管理を継続しましょう。

(1) 穂肥診断の手順 (幼穂長で施用日を決め、草丈と葉色で施用量を判断する。)

① 幼穂長を測り出穂前日数を判断する。

【幼穂長と出穂前日数のめやす】

【葉緑素計と葉色板の読替表(コシヒカリ)】

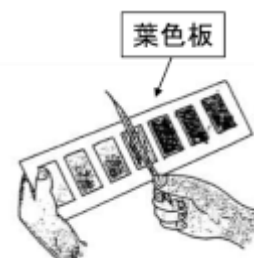
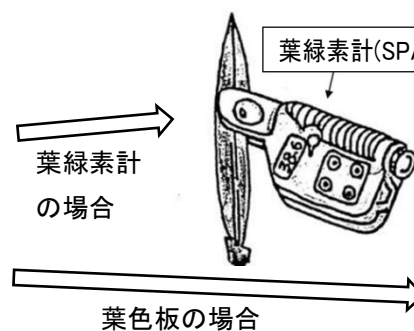
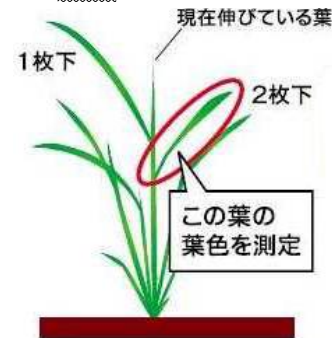
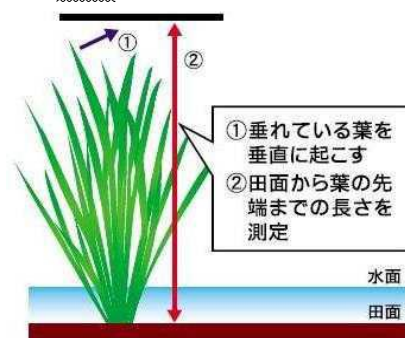


幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2	20日
0.5~1.0	18日
4.0~6.0	12日
10.0~12.0	10日

葉緑素計 (SPAD502) の数値	葉色板(単葉)の数値	
	出穂 24~21日前頃	出穂 14~12日前頃
28	3.2	3.6
30	3.6	3.9
32	3.9	4.2
34	4.2	4.5
36	4.6	4.8
38	4.9	5.1

② 草丈を測る。

③ 葉色(単葉)を測る。



◎ 草丈・葉色調査は、水口や畦畔際を除き、ほ場内の生育中庸株5株程度の平均とする。

(2) コシヒカリの穂肥診断 ~上記の調査結果を基に、穂肥時期及び量を判断する~

【1回目の穂肥:幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】

【2回目の穂肥:出穂12日前頃の葉色による診断】

草丈	葉色(単葉)	SPAD値 34~32 葉色板 4.2~3.9	SPAD値 35以上 葉色板 4.4以上
	70~75cm 以内	時期・量とも基準どおり施用 ■出穂18日前:1.0kg/10a	時期を遅らせて施用 ■出穂15日前:1.0kg/10a
75~80cm 以内	施用量を減らす ■出穂18日前:0.5~0.8kg/10a	時期を遅らせ、施用量を減らす ■出穂15日前:0.5~0.8kg/10a	
80cm 以上	施用できない	施用できない	

出穂14~12日前の葉色(単葉) ↓	出穂10日前の穂肥量(10a当たり)
SPAD値 34~32 葉色板 4.5~4.2	基準量どおり施用 1.0~1.5kg
SPAD値 35以上 葉色板 4.6以上	施用量を減らす 0.7~1.0kg 未満

※2回目穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用する。

(3) こしいぶきの穂肥診断 ~1回目の穂肥は、草丈・葉色から判断し、2回目の穂肥は確実に施用~

【1回目の穂肥:幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】 ※葉色の数値は参考値

【2回目の穂肥】

草丈	葉色	SPAD値 36以下、葉色板 4.6以下	SPAD値 37以上、葉色板 4.7以上
	60cm 未満	時期・量とも基準量どおり施用 ■出穂23日前:1.0kg/10a	時期を遅らせて施用する ■出穂20~18日前:1.0kg/10a
60cm 以上	施用量を減らす ■出穂23日前:0.8kg/10a程度	時期を遅らせ、施用量を減らす ■出穂20~18日前:0.8~1.0kg/10a	

- 時期 : 出穂14日前
- 施用量 : 1.0kg/10a
- ※ 低地力地域や後期栄養の不足が懸念される場合は、1.5kg/10a

次回7月6日発行予定